



上: 右から審査委員長の東大地震研教授の平田直氏、千野秀和氏、大橋、三浦。



隈本ゼミ マスコミ学科 ラジオドラマで 奨励賞受賞

(独)防災科学技術研究所主催の第5回防災コンテストの表彰式が3月14日、国連防災世界会議の関連事業の一環として仙台市で開かれた。防災ラジオドラマ部門で入賞した江戸川大学メディアコミュニケーション学部マスコミ学科隈本邦彦ゼミ津波グループの代表大橋茜さん(4年)が表彰状と楯を受け取った。(文・三浦美由)



受賞作は、(独)防災科学技術研究所のウェブページでも聞くことができる。江戸川大学のホームページにもリンクが貼つてあるのでそこからも聞くことができる。

この日の仙台市は、バン・ギムン国連事務総長をはじめ世界の要人が参加する国連防災会議のため、あちこちで手荷物検査が行われるほどの厳戒態勢。

5回目となる同コンテストには全国の113グループが応募、このうち防災ラジオドラマ部門では、江戸川大学隈本ゼミ津波グループの3人(大橋、三浦美由、武士俣勇太)が出品した「伝えられていない教訓」が奨励賞を受賞した。

午前中の表彰式で、審査委員のNHKアナウンサー千野秀和氏から表彰状と楯を受け取った大橋茜さんは「ゼミ生で協力して作り上げたドラマが評価されてうれしい」と感想を述べた。

受賞作「伝えられていない教訓」は、千葉県内の小学校が舞台。主人公の若い教師が、東日本大震災で起きた石巻市立大川小学校の悲劇のほんとうの原因がマス・メディアで伝えられていないことに気づくというストーリーだ。同小では、先生たちの避難誘導の失敗で、校庭に待機させられていた74人の児童が津波に巻き込まれて死亡。行方不明となった。しかしその先生たちもほとんどが死亡していることから、「死者を鞭打つ報道はできない」「被災者に優しい報道をしないと批判される」というメディアの過剰な配慮・保身によって、先生たちの失敗という視点ではほとんど伝えられていない。批判の矛先はもっぱら石巻市教育委員会や、市の防災当局に向けられているのが現状だ。

隈本ゼミ津波グループは、この点に着目して各社の報道内容をいねいに検証。卒論にまとめるとも「教員たちの備えが大切」という教訓を多くの人に知ってもらうため、防災ラジオドラマを制作した。現地で録音した音源を交えて作成した7分間のドラマでは、現地を訪ねた主人公が地元の人に詳しい話を聞いてようやく真実を知ることになる。その過程を通じて、マス・メディアが災害の教訓を伝えることの重要性を指摘した。

審査委員からの講評では「災害の教訓を正しく伝えるためには、マスコミによる情報だけでなく、現地で見て感じながら語り継いでいくことの重要性が伝わる作品である」「作品を学校や地域の方々にも聞いてもらい、防災意識の啓発への貢献を期待したい」との評価を受けた。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 広報課